第５学年〇組　道徳学習指導案

平成２３年　月　日（〇曜日）第〇時限　　指導者　伊藤　みずき

１　主　題　名　　祭りの日の拾い物　　１－（４）　正直・誠実

２　主題について

(1) 学級の児童の実態

本学級の児童は，発言に積極的な児童が多く，自分の気持ちや考えを積極的に表現してもよいのだという明るい雰囲気がある。しかし，いけないことだと思っていても，人が見ていなかったり，影響力の強い友達に言われたり，まじめさをからかわれたりすると，誤った行動をしてしまう児童も少なくない。

これは，うそやごまかしをしたときの後ろめたさや罪悪感についてじっくりと考える機会が少なく，自分の心の中にあるまじめさを大切にして行動する気持ちが十分に育っていないからだと考える。

(2) 学習内容

過ちや失敗はだれにでも起こりうることである。そのとき，うそやごまかしをしないで誠実であろうとすることは，心を豊かにし，自己の向上につながる。

しかし，人は自己の利害や損得にとらわれやすく，高学年ともなると何が善くて何が悪いのか頭の中では分かっていても，人が見ていないからという理由やごまかせそうだからといった理由などから安易な方に流れてしまい，誠実な態度をとれないことも多い。そこで，この時期の児童に，うそやごまかしをしたときの自分の心に対する後ろめたさを感じ取らせ，誠実な態度で過ごしていこうとする気持ちを高めていきたい。

(3) 資料の解釈と取り扱い

主人公けんじが，祭りの日に拾ったサービス券の処理について友達と話し合う。届けた方がよいという意見も出るが，結局は拾ったサービス券を使ってたこ焼きを買ってしまった。祭りが終わるころ，鳥居の前でサービス券を落として泣いている妹を，必死でなだめている姉の光景を見て，三人はその場で顔を見合わせ立ちすくんでしまうという内容である。

そこで，本時では，次の三つの場面を取り上げ，ずるさや心の弱さを乗り越られなかったときの後ろめたい気持ちや罪悪感を感じ取らせ，そこから誠実な態度について考えさせたい。

第一は，けんじがサービス券を拾った場面である。この場面では，けんじの心

の中には「使おうか」「届けようか」の両方の思いがあり，迷っているということを押さえるようにしたい。

第二は，サービス券でたこ焼きを買う場面である。たこ焼きを注文してから受け取るまでの間のけんじの思いを考えるようにすることで，拾ったサービス券を使ってしまうという不正な行為に対するけんじの後ろめたさをとらえさせたい。

第三は，資料には書かれていない「たこ焼きを食べる」場面を取り上げる。不正な行為で得たたこ焼きを食べたときの味は，おいしく感じないことを想像させたい。そして，不正な行為をすることは，自分自身の心に対する後ろめたい気持ちが生まれてくることをとらえさせたい。

(4) 「気づき」を広げるための指導方法の工夫

《発問の工夫》

「たこ焼きを買ったとき」ではなくて「たこ焼きを注文してから受け取るまでけんじは，どんなことを考えていたでしょう。」とすることで，たこ焼きを待っている間の主人公の後ろめたい気持ちを感じ取らせる。

《動作化：表現活動の工夫》

「たこ焼きを注文してから受け取るまで」の動作化を行う。児童は，たこ焼きを待っている主人公の気持ちについて，想像をふくらませる。発言するときは主人公になりきって言うようにする。児童一人一人の違いが表れ，友達との考えの違いから「気づき」が広がると考える。

《発問の工夫》

資料には書かれていない場面を取り上げることで，児童が自身の経験を基に考えることができるようにする。たこ焼きの味を想像させ，その理由を聞くことで自分の経験を振り返りながら考えることができ，自分とのかかわりから「気づき」を広げることができると考える。

3　指導計画（１時間完了）

4　本時の指導

(1) ねらい

拾ったサービス券を使った主人公の自分の心に対する後ろめたい気持ちを感じ取り，誠実な態度で過ごしていこうとする気持ちを高める。

(2) 準　備

読み物プリント「祭りの日の拾い物」（明るい心　５年　県教振）

ＢＧＭ（祭りの雰囲気が出ているもの），人物絵，サービス券，道徳プリント

(3) 関　連

４年「百点を十回とれば」「わすれ物」　６年「手品師」

(4)　指導過程

時間配分	学習活動	教材など	教師の発問	予想される発言や心の動き
５分	1　祭りの様子を想起する。	ＢＧＭ	①　お祭りで何が楽しみですか。	①・わたがしを買うこと。 ・焼きそばを食べること。 ・金魚すくいをすること。 ・風船つりをすること。 ・踊ること。
32分 (6分)	2　資料「祭りの日の拾い物」を読みけんじの気持ちについて考える。	場面絵		
(6分)	(1)　サービス券を拾ったとき		②　サービス券を拾ったとき，けんじは，どのような気持ちになりましたか。	②・どうしよう。 ・届けようかな。 ・名前が書いてあるわけでないから持ち主はきっと分からないだろうな。 ・自分だけでは決められないから友達に相談しよう。 ・今日しか使えないから，使っちゃおう。 ・きっと，使っても分からないだろう。
(10分)	(2)　サービス券でたこ焼きを買うとき	サービス券	③　たこ焼きを注文してから受け取るまでけんじは，どのようなことを考えていたでしょう。	③・どきどきして，こわい。 ・ばれたらどうしよう。 ・本当にいいのかな。 ・やめておけばよかった。 ・もう引き返せない。
			③′なぜそう思うのですか。	③′・その場にいたくないから。 ・悪いことをしているから。 ・拾った券を勝手に使ってしまっているから。

【友達との考えの違いから「気づき」を広げる】

《発問＋動作化：表現活動の工夫》

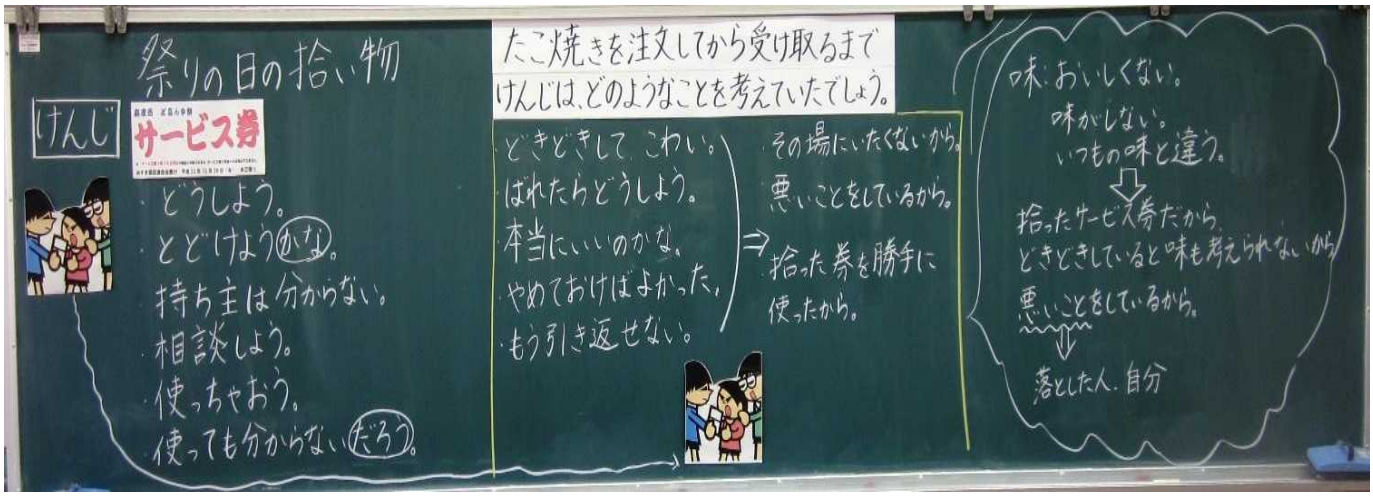
注文してから受け取るまでの間にどのようなことを考えていたかを聞くことで，けんじの後ろめたい気持ちをより深く考えることができるようにする。動作化を基に考えたことを，児童一人一人がけんじの気持ちになりきって表現することで，それぞれの考えの違いが表れ，そこから「気づき」を広げることができると考える。

指導上の留意点（★配慮を要する児童への働き掛け）	評価の観点と方法
○　祭りのことを想起しやすいように祭りのおはやしのＢＧＭを流すようにする。 ○　祭りにはやりたいことやほしい物が数多くあることや楽しい雰囲気を児童に想像させながら資料へ入るようにするために，祭りで楽しみなことを尋ねる。	○　祭りの様子を想起し，資料への関心をもつことができたか，発言内容や話を聞く態度や表情からつかむ。
○　資料を読んだ後，登場人物や資料のあらすじを確認し，資料の内容把握を助けるようにする。 ○　発言内容に補足しながら，サービス券の性質（無料で配られた，今日しか使えないなど）について確認する。 ○　発言の語尾に迷いのある言葉（○○かな，◇◇だろうなど）が出た場合は，チョークで印を付けることで注目させ，主人公の心の中には「届けよう」「使おう」のどちらの気持ちもあり，迷っていることを押さえる。 ○　最後は，拾ったサービス券を使ってたこ焼きを買うことにしたことを確認する。	**○　拾ったサービス券を使ってしまったけんじの後ろめたい気持ちを感じ取ることができたか，発言内容や話し合いへの参加態度（話を聞く様子・視線・うなずき）からつかむ。**
○　けんじの気持ちをじっくり考えるようにするために，たこ焼きを注文してから受け取るまでの動作化（代表児童：けんじ役，教師：たこ焼き屋役）をするようにする。 〔けんじ役：動作化の流れ〕 ①　サービス券を拾う。 ②　「どうしよう。」 ③　「たこ焼きください。」 ④　たこ焼きができるのを待つ。 ⑤　たこ焼きを受け取り，サービス券を渡す。 ○　児童の発言に対し，同じような考えから聞いていき，それから違う考えを発言させることで，児童それぞれの考えの違いを分かりやすいようにする。 ○　動作化で想像した様々なけんじの気持ちについて理由を聞くことで，不正な行為に対する後ろめたい気持ちが基になっていることに気づかせるようにする。	【友達との考えの違いから「気づき」を広げることの評価について】 ○　発問や表現方法の工夫により，けんじの気持ちについて，児童一人一人の違いが表れ，友達との考えの違いから「気づき」を広げることができたか，発言内容と話し合いへの参加態度からつかむ。

時間配分	学習活動	教材など	教師の発問	予想される発言や心の動き
(10 分)	(3)　たこ焼きを食べているとき	道徳プリント	④　拾ったサービス券で買ったたこ焼きを食べているときの味は，どんな味だと思いますか。どうして，そのような味がしたのでしょう。	④・おいしくない。理由は，拾ったサービス券だから。 ・味がしない。理由は，どきどきしていると味を感じられないから。自分も同じような経験がある。 ・いつもと味と違う。理由は，悪いことをしているから。
	【自分とのかかわりから「気づき」を広げる】 **《発問＋書く活動の工夫》** **資料に書かれていない「たこ焼きを食べる」場面を取り上げることで，児童自身の経験を基に考えるようにする。書く活動を取り入れることで，児童一人一人が自分自身の経験を基にじっくりと考えることができる。たこ焼きの味を想像し，自分の経験を振り返りながら考えるようにすることは，自分とのかかわりから「気づき」を広げることができると考える。**			
			④′誰に悪いことをしてしまったのでしょう。	④′・落としてしまった人に悪いことをした。 ・自分に悪いことをした。
5 分	3　今日の授業で思ったことや感じたこと，考えたことを伝え合う。		⑤　今日の授業で，思ったことや感じたこと，考えたことは，どのようなことですか。	⑤・自分もけんじみたいに使ってしまうと初めは思ったけど，友達の意見を聞いてまじめに考えるのが大切だと思った。 ・ばれないだろうと思ってやっても，自分の心はごまかせないことに気づいた。 ・誰も見ていなくても，自分自身は見ているので，自分に恥ずかしくない生き方をしたいと考えた。
3 分	4　教師の話を聞いて，誠実な態度で生活をしていこうとする気持ちを高める。		⑥　テストの採点間違いに気が付いて，正直に言う子がたくさんいて先生は驚きました…。	⑥・百点じゃなくなったけど，正直に言ってすっきりした気持ちになったのだな。 ・自分の心の中にあるまじめな気持ちが大切なのだな。

指導上の留意点（★配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
○　たこ焼きを受け取った後，主人公がたこ焼きを食べたことを確認し，拾ったサービス券で得たたこ焼きの味を想像させるようにする。 ○　発問してから，児童にしばらく考えさせ，道徳プリントを配付するようにする。 ○　一人一人の児童がじっくりと考えられるように道徳プリントに記述してから，発言するようにする。 ★　記述するのに時間が掛かっている児童には，「拾ったサービス券で買ったたこ焼きって，いつも食べているたこ焼きと同じ味かな。」などと，個別に声を掛けるようにする。 ○　どうしてその味がするのか，自分が考えた理由を付けて発言するように指示する。	**【自分とのかかわりから「気づき」を広げることの評価について】** **○　発問の工夫により，自分とのかかわりから「気づき」を広げることができたか，発言内容と話し合いへの参加態度，道徳プリントの記述内容からつかむ。**
○　女の子に対して悪いことをしてしまったという発言が出たときには，食べているときには，女の子に出会っていないことを確認し，自分自身のまじめな気持ちに従わなかったという自分の心に対する後ろめたい気持ちを押さえるようにする。	
○　発問してから，児童にしばらく考えさせてから発言するようにする。 ○　児童が考えにくそうな場合は，板書を振り返らせるようにしたり，友達の発言で自分が考える上で参考になった発言を発表したりするように指示する。 ○　今日の授業で児童が思ったことや感じたこと，考えたことを学級全体で伝え合うようにすることで，本時のねらいである不正な行為に対する後ろめたさやまじめに生きる大切さについて，児童一人一人が考えるようにする。	○　今日の授業で思ったことや感じたこと，考えたことを伝え合い，不正な行為に対する後ろめたさやまじめに生きる大切さについて考えることができたか，発言内容や話を聞く態度や表情からつかむ。
○　教師の説話では，誠実な行動ができたときの明るさや誇らしさを伝え，だれの心の中にもまじめな気持ちとずるい気持ちがあるが，自分の心の中のまじめな気持ちに従って行動することが大切であることを感じさせるようにする。	**○　誠実な態度で過ごしていこうという態度を一人一人がもつことができか，話を聞く態度や表情からつかむ。**

(5) 板　書　案



5　備　　考

○　道徳プリント

祭りの日の拾い物

名前

◎　拾ったサービス券で買ったたこ焼きを食べているときの味は，どんな味だと思いますか。どうして，そのような味がしたのでしょう。

どんな味？

どうしてそのような味がしたのでしょう。